「信じます、不信仰なわたしをお助け下さい」

今週のみことば

(サムエル記第一17章31～50節)

「おまえは、剣と、槍と、投げ槍を持って、私に向かって来るが、私は、おまえがなぶったイスラエルの戦陣の神、万軍の主の御名によって、おまえに立ち向かうのだ。きょう、主はおまえを私の手に渡される。」(45,46)

(マルコによる福音書9章14～29節)

「するとイエスは言われた。『できるものなら、と言うのか。信じる者には、どんなことでもできるのです。』するとすぐに、その子の父は叫んで言った。『信じます。不信仰な私をお助けください。』(23～24)

今日のメッセージ要旨

◎私たちの聖書を読み、また説教を聞き、神様からの約束を戴いた時、「アーメン、信じます」と告白することがあります。しかし、イザ現実に立ち返る時に「信じられない」と思うことがあります。その時、どうすれば良いのでしょうか？

◎サムエル記第一17章は「ゴリアテとの戦い」の記事です。当時、ダビデはサウルの王宮と家とを往復しつつ両者に仕えていたようです。ゴリアテ事件は彼が家にいた時に起こったのです(15,17)。巨漢ゴリアテがペリシテの陣営から名乗りを上げ、イスラエル軍に挑戦し、代表戦士を出せ、一対一で戦おうと申し出て来たのです。これを受けて立つ者がイスラエルの中には一人もおらず、意気消沈しているところに、父の使いでたまたま戦場を訪れたダビデが主による義憤に駆られ、この大男と闘い、ついにたった1個の石を用いて彼を倒す、という胸の躍る記録をここに見ることが出来るのです。

◎マルコの福音書9章14節如何には「いやされたてんかんの少年」について記されています。山を下ったイエス様は再び「不信仰な世」と向き合うことになるのです。口がきけない霊につかれた少年が、癒しを求めてイエス様の許に連れて来られたのです。主と側近の弟子たちが不在の間、残された者たちで汚れた霊の追い出しを試みましたが、失敗したあげく、律法学者と、面目をつぶされた弟子たちとが論じあっていたのです。

弟子たちはイエス様に従い(3:14,15)、すでに汚れた霊を追い出す権威を授かり(6:7)、実践にも与っていたのです。しかし、彼らはかたくなな心を繰り返し非難され(4:40,6:50-52,8:17-21)、ここでもイエス様は、弟子たちを含めた「不信仰な世」(19)を非難されているのです。イエス様は「その子を私のところに連れてきなさい」(19)と命じて、すべての権威を持つご自身を現し、周りの人々の信仰を喚起されたのです。イエス様こそがすべての解決の源なのです。

◎その場で少年はひきつけを起こし、泡を吹きながら転げ回ったのです(20)。父親はイエス様にすがって「もしおできになるものなら、私たちをあわれんで、お助けください」(20)と叫んだのです。父親は自分の信仰から疑いを追い払うかのように「信じます。不信仰な私をお助けください」(24)と言って息子をイエス様の前に差し出したのです。その姿勢にイエス様は応えられ、癒しの手を伸べられたのでした。私たちも不信仰な告白をすることがありますが、しかしその「不信仰なわたしをお助けください」と叫ぶところに信仰が働くのです。「不信仰の信仰」にも神様は働いてくださるのです。神様は憐れみ深い御方なのです。